

空き家率 … 過去最高
「管理不全 空き家」も、固定資産税の減免「無」
第3期「空き家等対策計画」策定

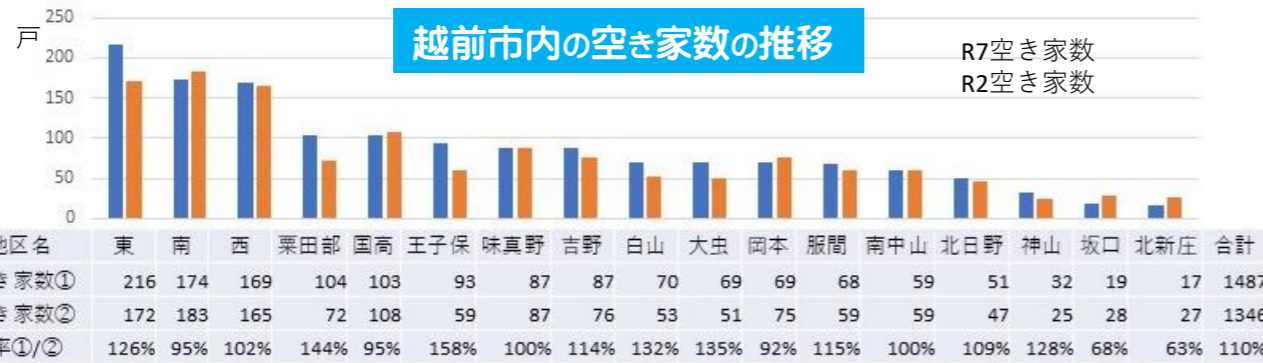
令和7年11月の、大分市佐賀関（さかのせき）の大規模火災では、多くの空き家の存在が延焼の一因と上げられました。

市の調査によると、本市の空き家率は過去最高です（下のグラフ、地区別空き家数参照）。さらに残念なことに、この空き家率は、全国平均より高いのです。防火性能が低い建物が点在しています。

家主の適正管理や、活用が、今まで以上に望まれます。また、改正された空き家特措法により「管理不全空き家」となると、危険空き家と同様に、固定資産税の1/6の減額制度がなくなります。ご注意ください。



中心市街地（東地区）にある木造茅葺の空き家。火災延焼の危険有



● **おわりに**

土田のぶよしは、かつて「訪ソ青年の船」事業でソビエト（現ロシア）に行きました。冷戦時代の「社会主義国」、「資本主義国」の対立の最中です。ソビエトでは、「働いても働かなくても給料は同じ。だからなるべく働かない」とのこと。社会主義は「やばい」と思いました。本来、社会主義自体は、より平等で、公平な社会を目指すもので、「やばい」ものではありません。とは言え、社会主義に偏りすぎると社会が発展なくなってしまいます。他方、資本主義に偏りすぎると貧富の格差が拡大してしまいます。アメリカでは、富裕層の上位1%が国民の全資産の32%を保有しています。一方、貧困も増え、格差問題が深刻化しています。弱肉強食の社会です。

日本でも格差が広がっています。格差が増え続けると、いずれ破綻します。そして、解消は、戦争や内戦です。これも「やばい」です。

では、どちらを選ばいいのでしょうか。どちらかを選ぶのではなく、この、0から100の間のちょうど良いところを探したいです。

今日の格差の拡大は、修正が必要で、改善の余地があります。知恵を出し合ひましょう。



先を見据えた着手。大切ですね。土田のぶよしの趣味は、囲碁。市職員時は「コウノトリが舞う里づくり」を担当していました。これをモチーフにした素敵なイラストです。山口真歩さん（越前市在住の高校生）作です。

土田のぶよし 通信



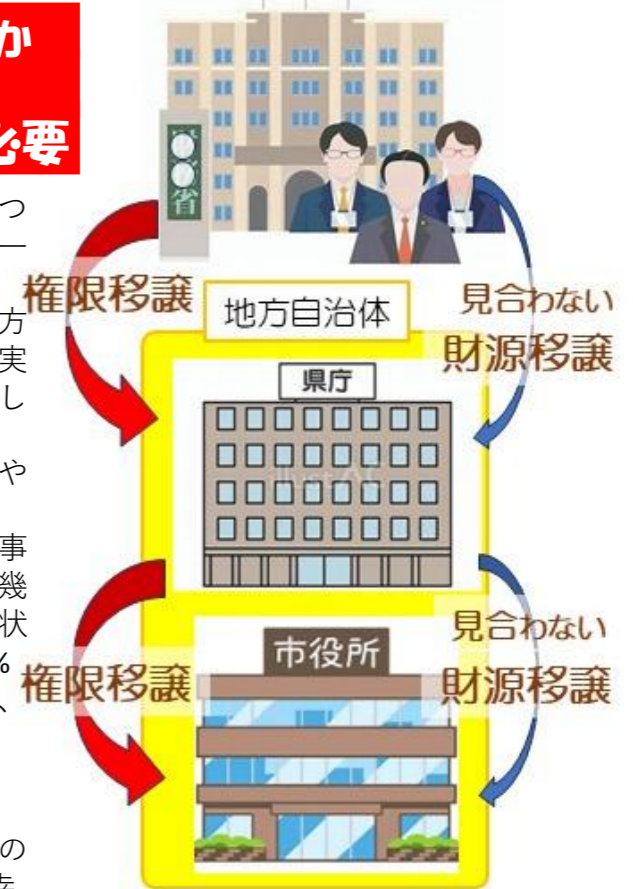
発行 土田のぶよし 携帯 090-2834-8861 Mail nobut2001@yahoo.co.jp

地方分権 … どのようにとらえているのか
仕事は増え、財源乏しい
地方が担う仕事に見合う税の配分が必要

土田のぶよしは、地方分権改革に係る本市の状況について、一般質問をしました。この改革は、多くの「一括法」により、段階的に進められてきました。国と地方の関係を対等・協力関係に改めました。地方の自主性・自立性を高めるためです。地方が地域の実情に合わせて行政を決められるように改革してきました。

国から県へ、県から市へ。はたして、この権限移譲や事務移譲が、財源的に見合っているのでしょうか。本市を含め、多くの都市が、市町村合併等をはじめ事務効率の向上を図ってきました。しかし、現状は、幾多の業務を抱え、経常収支比率が高く、余裕のない状況になっています。経常収支比率は、70%~80%の間が理想とされていますが、県内の9市を見ると、一番低い市でも80%の後半台で、本市など多くは、90%を超えています。

また、少ない職員で仕事を回し、余裕のない状況になっています。職員の過重労働、職員の早期退職への影響(下のグラフ参照)、さらに、これらが、市民の幸福(ウェルビーイング)を妨げないか、心配です。国税と地方税の配分(国6割、地方4割)に対し、歳出の配分(国4割、地方6割)と逆転しています。地方分権、地方創生、掛け声はいいのですが、地方は国からの財源に頼らざるを得ない構造です。市長の所見を求めました。



市長所見 東京の税収を地方に振り分ける

私(市長)は、地方分権改革当時、福井県庁で権限移譲の担当をしていた。当時の「地方分権の熱い考え方・理念」は、いまだに実現していない。要は財源の問題だ。単に「地方交付税の見直し」ばかりでなく、「東京の税収を地方に振り分ける」こんな考えが必要。国民・市民が、こんな発想を持つことが大事。私(市長)も機会あるごとに、精いっぱいやりたいと思っている。





「ひな祭り」の発祥は、日本で、私たちが住む福井県越前市。発祥時期は、縄文時代後期とする文献・図書が発見されました。「ホツマツタエ（秀真伝）」という歴史書です。昭和41年に国内で一部が発見され、平成4年に全巻が発見されました。以来、研究が進んできています。全巻が発見された場所は、滋賀県高島市の日吉神社です。「天・地・人」の3部で構成され、約12万文字、全40巻の書物。縄文時代から3世紀初頭までの出来事を、五七調の和歌でヲシテ文字（古代文字）で記載されています。

ホツマツタエ偽書説

「ホツマツタエは偽書」だとの説があります。主な理由は、ホツマツタエが現代と同じ五母音を使用していることです。「古事記」や「日本書紀」は、漢字で記載され八母音を使用しているため、当時の日本人は八母音を使っていたはずだという学説に基づき、ホツマツタエは、後世に作られた偽書としています。しかし、現代の歴史学や考古学の研究が進む中で、ホツマツタエが当時の文化や信仰を反映した書物である可能性が高まっています。

かつては、古事記も偽書説あり

日本最古の歴史書「古事記」も偽書と疑われた時代がありました。江戸時代後期です。主な理由は、日本書紀が、古事記より8年後に完成したにもかかわらず、古事記からの引用が全くないことです。現代では、研究が進み偽書ではない考え方が有力です。



発見された図書は江戸期に製本されたものです。古代文字の「ヲシテ文字」で、隣に漢文の「翻訳」がついています。「ヲシテ文字」とは、漢字が日本に伝来する以前の、縄文時代から

弥生時代に使われていた文字です。右図をご覧ください。

「ヲシテ文字」です。ひらがなやカタカナとは全く違います。記号のようにも見えます。「ヲシテ文字」は、一文字ずつに意味がある文字です。たとえば、「ホツマツタエ」の「ホ」は、「炎」にゆかりがあり、秀でていることを指します。村国山の旧名称は、ほやまです。帆山の「ほ」は、帆かけ船の「帆」と書い

ホツマツタエがとも分かりやすく紹介されている図書「はじめてのホツマツタエ」

「ヲシテ文字」

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|----|
| ハ | ミ | ホ | カ | ウ | 五 |
| ニ | ヅ | | ゼ | ツ | 元 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 素 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 母音 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 子音 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | ・ |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 一 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 十 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 丁 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 人 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 一 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 上 |
| 口 | ㄩ | △ | ∩ | ○ | 下 |

ていますが、帆山神社に伝わる「ほ」は、炎の火あrawし、「秀」でている説をお聞きしてきました。一文字ずつに意味があるヲシテ文字につながります。

結婚式での新郎新婦が交す三三九度 男女の結婚制度 こしのくにのかんみやが発祥

ホツマツタエは難解ですが、現代に通じる言葉も多く、原文をそのまま読んでも、おおよその意味はつかめます。この中に、「桃」、「ひな祭り」、「お神酒(みき)」、「結婚式の時、神前で新郎新婦が交す三三九度」、「男女の結婚制度」、「ひな型」の発祥の地が、越前市との書きぶりが確認できたのです。コシの国（越前）のヒナルノ岳（現・日野山旧・雛ヶ岳）の神の宮と推定されるのは、越前市荒谷町の日野神社です。地元の北日野地区では、勉強会を開催し、「紙芝居」をつくり、この物語を伝えようとしています。土田のぶよしは、ホツマツタエに、本市の発祥事項が、発見されたことを受け、①ホツマツタエに関する情報収集 ②ホツマツタエ全40巻が発見された滋賀県高島市との連携、交流 ③学芸員の採用 ④地域おこし・聖地巡礼など、観光に活かさないか、などの質問を行いました。



「ひな祭り」発祥ゆかりの神社とされる日野神社(越前市荒谷町) 祭神は、百日諾(モモヒナギ)と百日冊(モモヒナミ)。ホツマツタエに登場する夫婦神と一致している。



「ひな祭り」発祥ゆかりの地 越の国の「雛ヶ岳」(日野山)



ホツマツタエの研究をする「こしの歴史勉強会」の方々 (於北日野公民館)



子供達と一緒に作った「ひな祭り」の発祥を伝える紙芝居。3世代で発表しました。(於北日野小学校)

市長等から、次の回答を頂きました。①文化財や地域史の観点から情報収集を行う。②平成19年に継体天皇の即位1500年イベントで、交流があった。ホツマツタエの新しい物語として活用することは大事。都市間交流ができるとうい。③令和3年度と5年度に1名ずつ採用している。令和8年度も1名を採用予定で、現在選考中。④越の国の最先端の技術や文化に深みを持たせるもの。地域の文化として生かすということは極めて大事。地域ブランドをつくる上で地元の人たちの誇り、プライドがベースにないと外に発信することができないので、北日野地区の市民自らの研究や活動は、理想的な姿。しっかり応援をし、それを生かす方法を考える。特に「ひな祭り」とか「結婚」「そういった聖地」というのは、今の少子化対策とかにすごく馴染みのいい題材だ。進める材料としたい。期待が膨らみます。本市の縄文期からの豊かな文化が明らかになろうとしています。